

# 初日からレース白熱

## 松川 実業団サイクルロード

松川町の中央道松川インター周辺の上大島周回コースで三十一日に開幕した「第一回全日本実業団サイクルロードレースin南信州松川」。酷暑の中、全国から集結した選手が迫力のレースを繰り広げた。

初日に行われた「B R-1」は、アップダウンが激しい一周四キロのコースを十五周する苛酷なカテゴリー。エントリートした百四十八人のうち六十キロを完走し

たのはわずか二十四人だった。優勝した湘南ベルマーレ・コムレイドの頓所哲郎選手(三三)は、最終周で三人を抜き去る大逆転勝利。県勢では信濃町に本拠地を置く快レーシングの村田隆選手(四四)が六位入賞を果たした。

松川町は、初開催となるサイクルロードレース大会に、町を挙げて選手らを歓迎。開会式では、町内の園児六人が町特産のリンゴジュースを選手代表に手

渡し、「頑張ってください」と声をそろえた。また、ゴール近くでは町特産の桃の試食販売コーナーが設けられ、

選手に振る舞われた。東京都北区から参加した加藤巨選手(五〇)は冷えた桃をほおぼり、「ジューシーでおいしい。疲れた体には最高です」と喜んでいた。

最終日の一日は、プロ選手らがエントリートする「TR」や「ER」、女子の「FR」がある。スタート時間はER午前八時半、FR同八時三十分、TR同十一時。



1本ずつラベルを手書きしたジュースを選手に手渡す地元園児ら

(一ノ瀬千広)



アジサイが沿道を彩る山あいのコースを疾走する選手たち。いずれも松川町で



うだるよつな暑さの中、ゴールを目指して疾走する選手ら